

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年6月24日

評価対象事業		評価者	駅周辺整備課長 林 浩一		
まち-03	実施事業	大船駅西口整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	駅周辺整備課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	市街地整備	施策の方針	市街地整備の推進	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	歩行者と車両分離による安全性の確保などにより、大船駅西口周辺の交通環境などの改善を図るため。
効果	大船駅西口の周辺交通環境などの改善により、市民等の安全性と利便性の向上を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 「横浜・鎌倉両市一体整備計画(案)」の廃止を含めた取扱いについて、神奈川県、横浜市と意見交換を行った。 都市計画道路阿久和鎌倉線の整備に向け、関係機関と意見交換を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
運営資源状況	事業の対象者数			事業の対象者数			
	決算値(千円)	0	0	当初予算(千円)	10		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	0	0	一般財源	10		
事業経費運営	人員配置数	0.6	0.4	人員配置数	0.3		
	人件費(千円)	4,573	3,026	人件費(千円)	2,359		
	総事業費(千円)	4,573	3,026	総事業費(千円)	2,369		
	市民1人当りの経費(円)	26	17	市民1人当りの経費(円)	13		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1. 減少している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
		△. 協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →				事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	都市計画道路阿久和鎌倉線の未整備区間の整備には、「横浜・鎌倉両市一体整備計画(案)」の見直しが必要であり、引き続き、神奈川県及び横浜市と調整を図っていく必要があるため、予算規模は現状維持とする。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>・平成10年に「横浜・鎌倉両市一体整備計画(案)」を策定したが、平成14年のドリームランド線廃止等により実現が困難な状況となったことから、平成23年に鎌倉市域での暫定的な計画として、大船駅西口交通広場を整備した。このことにより、現時点では、鎌倉市域における課題は都市計画道路阿久和鎌倉線の一部区間での未整備を除き、概ね解決している。</p> <p>・大船駅西口交通広場は、暫定施設として整備したものであり、当該広場用地については、神奈川県中央交通と20年間の事業用定期借地権契約を締結している。契約期間満了後は更地で返却しなければならない契約であり、恒久施設ではないため、大船駅西口交通広場の今後のあり方を含め、将来の土地利用方針を決定しなければならない。</p>
-------------------	---

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	「横浜・鎌倉両市一体整備計画(案)」の見直しについて、横浜市はJRとの協定の縛りや町内会からの要望への対応が必要なことから、同計画(案)を存続させたい意向である。横浜市の状況も考慮しつつ、都市計画道路阿久和鎌倉線の整備を同計画(案)で行わない旨の合意について、横浜市の理解を得る必要がある。	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	都市計画道路阿久和鎌倉線の未整備区間の整備に向けて、「横浜・鎌倉両市一体整備計画(案)」の見直しについて、横浜市や神奈川県と意見交換を実施した。	<input type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	「横浜・鎌倉両市一体整備計画(案)」の見直しについては、横浜市はJRとの協定や町内会からの要望への対応から、同計画(案)を存続させたい意向である。横浜市と引き続き協議を行い、横浜市に同計画(案)の見直しについて合意を得る必要がある。 合意後は、過去に県へ提出した協議書等の取扱いを整理し、都市計画道路阿久和鎌倉線の整備主体の県への移管に向けた調整を行う必要がある。 神奈川中央交通と大船駅西口交通広場の今後のあり方等について協議を行う必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	都市計画道路阿久和鎌倉線の各県・市事業区間の整備状況(用地取得率)。							
団体名	鎌倉市	神奈川県	横浜市					
他市実績	目標 100%	目標 100%	目標 100%					
	実績 19.9%	実績 96.3%	実績 100%					

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		単位	指標の傾向	備考				
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--